

ウィズ通信

災害と女性 防災における男女共同参画の推進

災害はすべての人に関わる問題です。障害者や高齢者、妊婦や子ども、日本語が分からない外国人など、支援が必要な人はもちろん、その地域で生きるすべての人に関わります。

緊急時・復興時において、特に女性をとりまくさまざまな問題があったことが、東日本大震災でも報告されています。例えば、炊き出しや介護などケア労働が女性に集中したことや、避難所での着替えや授乳スペースの問題、女性に対する暴力や性犯罪の増加などです。これは、防災・復興を考える際に女性の意見が取り入れられていなかったことに原因があるといわれています。

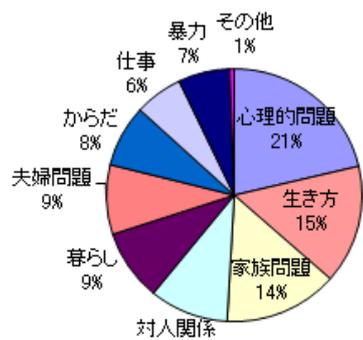
そのため、防災や復興の会議に女性委員の割合を増やすといった政策・方針決定過程への女性の参画の促進など、男女共同参画の視点を防災計画に反映させることが大切です。

市では「第3期男女共同参画計画・ウィズプラン」において、防災分野における男女共同参画の推進を重点施策にあげるとともに、防災計画にその意見を反映していく予定です。

●東日本大震災被災地における女性の悩み・暴力相談事業●

内閣府では、岩手県・宮城県・福島県に相談窓口を開設しました。「心が復興に追いつかず、自分だけおいていかれた気持ちになる」「震災後に夫の暴力がひどくなり、子どもにも暴力をふるうようになった」など平成24年度は5,573件の相談が寄せられました。

災害を体験した女性たちの声をしっかりと受け止め、被災地の復興に生かしていかなければなりません。



男女共同参画 TOPICS

国の防災基本計画に男女共同参画の視点を反映

東日本大震災の経験から、地方公共団体が策定する地域防災計画などに男女共同参画の視点が反映されるよう、国の防災基本計画(中央防災会議決定)が平成23年12月と平成24年9月に修正されました。主な修正点は下記の2点です。

- ① 避難場所の運営における男女共同参画の推進と、男女のニーズの違いなど、男女双方の視点に配慮する
- ② 復旧や復興のあらゆる場・組織に女性の参画を促進する



また、平成25年5月に内閣府男女共同参画局は「男女共同参画の視点からの防災・復興の取り組み指針」を策定し、男女共同参画センターや男女共同参画担当部局の役割を明記しました。平常時には、地域防災計画や避難所運営マニュアルなどの政策決定過程への参画、女性リーダーの育成、住民参加型の学習会の開催など、災害時には、相談支援、女性に対する暴力の予防啓発などを担います。

摂津市立男女共同参画センター ウィズせつつは・・・

性別に関わらず、家庭、学校、職場、地域などで、一人ひとりが個人として尊重され、対等な関係を築き、共に責任を担う男女共同参画社会づくりを推進するための目的施設です。

性別による固定的な意識を見直し、女性の自立と社会参画を推進します。また、市民の活動やネットワークづくりを応援します。



摂津市立男女共同参画センター情報誌「ウィズ通信」は、年に3回、5月・9月・1月に発行します。

自分力・地域力アップ！女性が考える防災をテーマに せつつ女性大学で「男女共生防災かるた」作り！

地域の人の命を守るのは、身近に住む地域の人たちです。自分の暮らすまちで、暮らしの中で培った女性の知恵や経験を生かし、防災について女性自身が考えて発信し参画することが、災害に強いまちづくりを進める上で大切です。

せつつ女性大学は、性別に関わりなく一人ひとりの人権を尊重し、互いの多様性を認め合う男女共同参画社会について学び、その視点をもって地域社会で活躍できる人材を育成することを目的に開講しています。19回目となる今年度は、平成25年7月から11月に10回コースで、「自分力・地域力アップ！女性が考える防災」をテーマに取り組みました。

前期は、男女共同参画の視点で防災について学び、考える中で、その背景にあるジェンダーや固定的な性別役割分担意識に対する理解を深めました。また、女性が地域のさまざまな場面に参画する中で、自分も相手も大切に作るコミュニケーションについても学びました。

後期は、前期での学びを踏まえ、女性ならではの経験や知恵を生かし、男女共同参画の視点で防災について考える「男女共生防災かるた」作りに取り組みました。男女共同参画と防災の2つをキーワードに、読み札を考えて持ちより、話し合いを重ねました。

最終講では、一人ずつ札を読み上げ、その札に込めた思いを発表し、19名が卒業しました。



10講目の発表会には、防災管財課の職員も参加し、講評をもらいました。

「男女共生防災かるた」の一部を紹介します！

自治会や自主防災組織の役員に女性はいますか？男性が役員で女性は補助という形では、イザという時に力を発揮することができません。女性も思い切ってさまざまな場に参画し、意見をきちんと伝えていく力をつけることが大切です。

うれしいと
自分をはげまし
女性も防災リーダー

傷ついた
心に寄り添う
聴く力

災害や暴力で傷ついたら心に一番必要なことは、相手の話をよく聴き、共感することです。

生活者の視点に立ったニーズを幅広く聞き入れることができるよう、避難所運営には男性と女性の責任者を配置しましょう。遊びは子どもたちの心の傷を癒すことにつながります。

子どもの遊び場
避難所にこそ
必要だ

せつつ女性大学 2013 カリキュラム

1	松井久子の生きる力～命をつなぐものとして～
2	“もしも”に備える自分力・地域力
3	防災ワークショップ／交流会
4	日本の男女平等度は世界の中で 101 位
5	いざという時にガマンしない！ ～コミュニケーション力アップ～
6	自分に出会う・人に出会う・社会に出会う ～ジェンダーの視点から～
7	防災と復興支援に女性の参画が必要なワケ
8	わたしたちがつくるせつつ防災プロジェクト
9	
10	発表会／卒業式

DVと虐待 ~地域で広げる身近な支援~



毎年11月12日から25日までの2週間は「女性に対する暴力をなくす運動」の期間であり、11月25日は女性に対する暴力撤廃国際デーです。ウィズせつつでは毎年この期間に、女性や子どもに対する暴力をなくすための講座やパネル展などを行っています。今年度は、11月17日に信田さよ子さんの講演会を開催しました。DV（配偶者からの暴力）と子どもへの虐待は、密接に関わっています。身近な問題として、自分たちに何ができるか考える機会となりました。信田さんの講演から抜粋して紹介します。

家族の中にある暴力

原宿カウンセリングセンターでは、被虐待経験をもって大人になった人やDV被害者等を対象に、さまざまなグループカウンセリングを行っています。同じような被害体験を持つ人たちのグループは、被害者にとって必要です。また被害者支援の一環として、加害者（夫）対象のプログラムも実施しています。加害者プログラムの情報を被害者が学ぶグループもあります。DVとはどういうものか、暴力のメカニズムを理解することは、被害者の力になります。

カウンセリングの場で、DV被害者と加害者、その家族の中で育った子どもを見ていると、DVと虐待の構造が立体的に見えてきます。



DVと虐待は世代間連鎖するか

虐待は世代間連鎖するとよく言われますが、虐待を受けた人が親になった時、必ず虐待をするわけはありません。母親になって「自分は親と同じことをしていないか」と悩み、自分の成育歴を振り返る女性は大勢います。これは、虐待の防止につながります。一方、男性たちはなかなか成育歴を振り返ろうとしません。むしろ「虐待を受けたからって何だ。自分はなんともない」と強がってしまう傾向があります。また、加害者プログラムに参加する男性の多

くが親のDVを目撃しています。虐待よりもDVの方が、連鎖している実態があります。男性が、親との関係を振り返って考えてみることは、暴力の連鎖を止めるための重要な鍵です。

被害者の回復のために

原宿カウンセリングセンターに来る被害者の約7割は、殴る蹴る等の身体的暴力は受けていません。また、公的機関では、加害者から逃げるための支援が中心になりがちですが、被害者が必ずしも離婚や別居を望むとは限りません。日本の社会が離婚した女性に優しくないからです。被害者一人ひとりの多様な状況を理解し、本人の気持ちによりそって共に考えることが必要です。

そして、逃げた後も長期的な支援が必要です。絶えざる不安と緊張の中で加害者と生活していた被害者が加害者から離れた時、緊張の糸が切れて、鬱になったりすることは珍しくありません。そんな時は、早く元気にならなければと焦ることはありません。今は何もできなくて当然なのだと思ってゆっくり過ごすことです。周囲もそれを理解して見守る環境が必要です。

また、暴力を受けていても、自分が被害者であると認めたくない人もいます。周囲の人間は、DVかどうかの定義にこだわるより、現在困っていることは何なのかを聞く方が、被害者にとって現実的な支援になるでしょう。

信田さよ子さんのプロフィール

臨床心理士。1995年原宿カウンセリングセンター設立。

アルコール依存症、摂食障害、引きこもり、DV、児童虐待に悩む人たちやその家族のカウンセリングを行っている。

東日本大震災から3年 あの日を忘れない つなぐ・ひろがる みやぎの女性たちの復興支援

被災地では、仮設住宅でのDV被害者殺傷事件が起こるなど、DVや虐待が深刻化しています。

東日本大震災で甚大な被害があった宮城県において、長年、子どもと女性への暴力防止の活動をしてきたNPO法人ハーティ仙台代表の八幡悦子さんは、震災後、被災地女性と全国の支援者との思いを結ぶことを目的に、みやぎジョネットを立ち上げました。宮城の地で「ピンチをチャンスに」を合言葉に、被災地の女性を支援しながら、防災と復興政策への提言を行っています。八幡さんには女性のための相談業務や、被災地におけるDV・性暴力防止の啓発事業から見えてきた課題を語っていただきます。

震災から3年。まだまだ遠い道のりである被災地の復興。私たちは何ができるのか、一緒に考えましょう。

日時：2月15日(土)午後1時30分～3時

場所：コミュニティプラザ コンベンションホール

講師：八幡悦子(NPO法人ハーティ仙台代表理事、助産師)

定員：80人 ※お子さんの一時預かりあり(要予約)/手話通訳あり



写真展「東日本大震災から3年 あの日を忘れない」

八幡悦子さんの講演にさきがけ、写真展を開催します。

「6枚の壁新聞」でメディアに大きく取り上げられた石巻日日新聞社から提供の震災直後の被災地石巻市の写真と、石巻の子ども達の未来をつなぐ石巻日日こども新聞も展示します。また、せんだい男女共同参画財団の女性支援の報告と、福島県南相馬市でボランティア活動をしている摂津市職員の報告も合わせて展示します。被災地の今の状況を知り、自然災害に備える意識を再確認しましょう。

日時：2月6日(木)正午～2月16日(日)午後4時

場所：コミュニティプラザ1階 情報コーナー



南相馬市でボランティア活動をする摂津市職員からの報告

編集・発行 摂津市立男女共同参画センター ウィズせつつ

●開館時間：月・木・金・土・日曜日 午前9時30分～午後5時
火曜日のみ 午前9時30分～午後9時

●休館日：水曜日・祝日・年末年始

〒566-0021 摂津市南千里丘5-35 摂津市立コミュニティプラザ1階

TEL：06-4860-7112 FAX：06-4860-7113

URL：http://with-settsu.jp e-mail：danjyo@with-settsu.jp



2014年1月発行